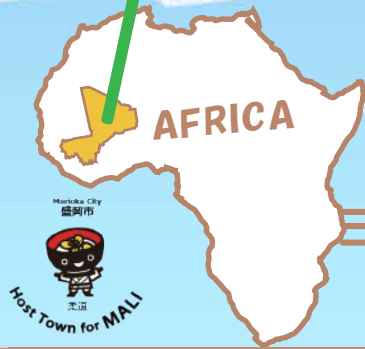


マリ共和国の ホストタウン 盛岡市

令和2年4月発行
盛岡市交流推進部
スポーツツーリズム推進室
Tel : 019-603-8009
メール : sports-t@city.morioka.iwate.jp



「ホストタウン」とは

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国・地域の選手・関係者と相互交流を図る自治体のことです。スポーツだけでなく、食や伝統文化などを通じて、大会終了後も交流を続けます。

覚書締結

マリ共和国でNGO「カラ西アフリカ農村自立協会」(以下「カラ」)を立ち上げ、農村で人々の自立支援に力を尽くしてきた村上一枝さんは岩手県立盛岡第二高等学校出身です。この縁がきっかけで盛岡市は、カナダに次いでマリ共和国のホストタウン認定を受けました。これは全国初かつ唯一の登録です。(2020年3月現在)

令和2年1月21日、ホストタウン相手国であるマリ共和国の柔道連盟と東京2020オリンピック事前合宿受入れに関する覚書を締結しました。

今後市民交流イベントやマリ柔道代表チームの事前キャンプ受入れを通じて交流を深めます。締結式では、マリ共和国柔道連盟会長から委任を受けたカラ代表の村上一枝さんと、盛岡市長が、覚書に署名し、取り交わしを行いました。

締結式後には、日本在住でマリ出身の演奏家ママドゥ・ドゥンビアさんから3名によるアフリカ音楽の演奏を楽しみながらの交流会が行われました。



二高生アートマイル



令和2年2月20日、岩手県立盛岡第二高等学校の美術部が参加した2019年度アートマイル壁画が完成し、市長への完成報告がありました。

壁画のテーマは「いままでのマリ～これからのマリ～」。「いままでのマリ」を世界遺産のトンブクトウや先住民族ドゴン族、特産の綿花や米などで表現し、「これからのマリ」では、女性の社会参画が進んでいく姿と、背景の緑色には砂漠化の進むマリ共和国に「緑(植物)を増やしたい」という願いを込めて描かれています。

2019年度アートマイル壁画は一般財団法人ジャパンアートマイルが主催し、「東京2020オリンピック・パラリンピック参加予定国・地域の子ども達と協創する未来」をテーマにその国・地域を表す壁画を制作するものです。



～マリ共和国ってどんな国？～



1960年フランスから独立
サハラ砂漠が国土の1/3を占めている。

首都：バマコ市

公用語：フランス語

面積：124万平方キロメートル
(日本の約3.3倍)

人口：1854万人(2017年)

～外務省ホームページから引用～

渡航方法：成田空港から首都バマコまで
アディスアベバ(エチオピアの首都)
を經由して飛行機で約23時間。

～エアラインガイドより～



**世界遺産
トンブクトゥの寺院**



パオバフ



ニジェール川



**カリテの実
(シアバターの原料)**



村の子供たち

～主食は？～



トウジンヒエを食べます。
アルコールをほとんど
飲みません



調理中の女性

～マリの人たちはダンス好き♪～

陽気で積極的、何よりダンスが大好きで働き者。
新しいものにかなり飛びつきやすくオシャレで
長髪や色白の肌にあこがれています。
(カラ代表 村上一枝さんより)



ジャンバ



ドゥンドゥン



コラ

丸いひょうたんに羊の皮を被せ鉄で止めたもので弦の数は22本。
繊細な音色はハーブのよう。もともとは特別な人たちだけに演奏が許された楽器で、その音色で王様を眠らせることも。

～カラの活動の成果～

カラはマリ共和国農村地域で人々の自立した生活の構築を約30年間支援してきました。今ではその多くが村人の力で十分に自立可能となり、特に女性は力強く努力し、助産師や指導者も誕生しました。その結果、村での女性の立場も変わっていきました。

